

教育研究業績書

令和 3 年 3 月 31 日

氏名 内山 秀樹 印

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1) ハスの実パン工房ワークショップの記録	共著	平成 9 年 9 月	パン工房ワークショップ準備会、ハスの実の会(後援会)全 100 頁	(全体概要) 重度障害者施設ハスの実の家と地域の障害者の「地域で働きたい!」という思いをパン工房という形で実現するために数年前より準備会が立ち上った。平成 7 年より 3 回のワークショップで提案した内容とそれをふまえて完成したパン工房(製造空間と店舗空間で構成)の概要を紹介している。 (担当部分概要)pp. 1~40 パン工房の概要(開店間近の『ハスの実パン工房』、施設概要など)とワークショップの記録とまとめ(第 1 回~3 回ワークショップ、ワークショップまとめ)を執筆分担。 (著者名:内山秀樹、桜井康弘、鈴木奈緒子)
2) 勤労者のボランティアグループ 30	共著	平成 12 年 3 月	(財)勤労者リフレッシュ事業財団 勤労者ボランティアセンター 全 196 頁	(全体概要) 勤労者のボランティア活動への参加意欲の高まりに対して、関心のある人や活動を始めようとしている人、すでに活動している人の参考図書である。全国から 30 の企業内ボランティアグループを選び、活動目的、内容、設立経緯、メンバー間の意思決定、円滑な活動の秘訣などについて紹介している。 (担当部分概要)pp. 92~99 重度の障害者厚生施設やパン工房を運営する社会福祉法人「ハスの実の家」の後援会活動を、昭和 58 年から企業内ボランティアグループ(ハスの実応援団)を結成して支援してきた。その目的、内容、活動の秘訣などについて述べるとともに、構成メンバーの率直な意見や思いも交えて執筆。 (著者名:小澤正仁、清水久義、佐藤和子、内山秀樹、他 26 名)
3) 21 世紀の田舎学-遊ぶことと作ること	共著	平成 21, 3, 31	森のエネルギーフォーラム 全 270 頁 (世界思想社) トヨタ財団 2007 年度地域社会プログラム成果普及助成を受けて出版	(全体概要)都市住民の田舎志向が強まりつつある中で、現代における「田舎」の意味と役割を明らかにすることである。しかし、近年は田舎に関しては学的展開があまりなされていない。本書は、21 世紀における田舎像を明らかにしようとするものである。 (担当部分概要)第 4 章 3 節、第 5 章 3 節 第 4 章 3 節は、古民家再生の連続ワークショップのプロセスと成果をまとめ、古民家が内包する時間的エネルギーが利

4) 1948 福井地震 報告書	共著	平成 23, 3, 31	中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会 「1948 福井地震」分科会	<p>用者の五感を刺激し、創造的活動を呼び覚ますことが期待されることを整理した。</p> <p>第 5 章 3 節では、事例研究として大分県安心院の取り組みについての現地調査をふまえ、事例から学ぶべきグリーンツーリズムの本質について整理した。</p> <p>(著者名：杉村和彦、増田頼保、内山秀樹、他)</p> <p>福井空襲、福井地震からの復興事業に関わった当時の技術者のヒヤリングをもとに復興のプロセス、エピソードを紹介。</p> <p>中林一樹、内山秀樹、他(担当 9 頁)</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1) 住居移動に関する基礎的研究(修士論文)</p> <p>2) 住居移動に関する発生率・流入率に関する検討試論</p> <p>3) 住居移動における移動発生率に関する検討試論 その 2-住宅年令が及ぼす影響-</p> <p>4) 住居移動における移動発生率に関する検討試論 その 3-住宅滅失を考慮した場合-</p> <p>5) 移動世帯の住宅立地選択に関する考察</p>	<p>单著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>单著</p> <p>昭和 55 年 9 月</p> <p>昭和 56 年 9 月</p> <p>昭和 57 年 9 月</p> <p>昭和 58 年 9 月</p>	<p>福井大学</p> <p>日本建築学会学術講演梗概集(計画系)pp. 1805~1806</p> <p>日本建築学会学術講演梗概集(計画系)pp. 2005~2006</p> <p>日本建築学会学術講演梗概集(計画系)pp. 2229~2230</p> <p>日本建築学会学術講演梗概集(計画系)pp. 2385~2386</p>	<p>住宅需給構造を把握する上で重要な要素である住み替えの頻度を定量的に算出するためのモデルを提案。その係数として住宅の所有形態別に移動率を算出する方法を提案した。また、都市内での住居移動の実態を大都市圏、地方中核都市の代表として各々名古屋市、福井市について分析し、都市規模による都市内での住み替え行動の相違を明らかにした。</p> <p>(全体概要)住宅の受給構造を明らかにするために、住居移動(住み替え)の発生頻度を表す発生率・流入率のモデルを提案し、住宅所有形態別に算出。</p> <p>(担当部分概要) 共著者は研究指導者で、全執筆 (著者名：玉置伸悟、内山秀樹)</p> <p>(全体概要)上記研究を発展させ、住居移動(住み替え)の発生頻度を移動発生率として定義しなおし、住宅年令(建築後経過年数)が及ぼす影響を試算。</p> <p>(担当部分概要) 共著者は研究指導者で、全執筆 (著者名：玉置伸悟、内山秀樹)</p> <p>(全体概要)上記、モデル式を住宅の滅失を考慮したモデル式に改善し、精度を上げ、一連の研究のとりまとめとした。</p> <p>(担当部分概要)共著者は研究指導者で全執筆 (著者名：玉置伸悟、内山秀樹)</p> <p>(全体概要)住宅需要実態調査データを用いて、大都市圏の代表として名古屋市、地方中核都市の代表として福井市について過去 5 年間の移動世帯の都市内での移動パターンを分析し、立地選択に関する考察を行った。</p> <p>(担当部分概要)共著者は研究指導者で全執筆 (著者名：玉置伸悟、内山秀樹)</p>

<p>6) 持家借家別世帯数の将来推計－富山県住宅需給調査報告 その1</p>	<p>共著</p>	<p>昭和 62 年 9 月</p>	<p>日本建築学会学術講演梗概集(F分冊)pp. 539～540</p>	<p>(全体概要)富山県の住宅政策の基礎的調査として行った一連の調査をテーマ別に報告したもので、その1からその11で構成している。所有形態別の世帯数、住宅着工戸数、人口移動の特性、新築持家の類型化、民間借家居住者特性、公営住宅の位置づけなどについて調査分析結果を報告。 (担当部分概要)上記の一連の調査のうちその1として、人口推計、所有形態別の世帯数の将来推計方法の提案と住宅需要量の算出を行った。 (著者名：玉置伸悟、金岡トモ子、内山秀樹、他6名)</p>
<p>(その他) 1) 住民自治推進施策に関する研究-越前市を事例として</p>	<p>単著</p>	<p>平成 19 年 3 月 31 日</p>	<p>仁愛女子短期大学研究紀要第 39 号</p>	<p>住民自治推進施策に関する研究の一環として、全国的にも先進的な越前市の「地域自治振興事業」を事例に、施策導入の背景、導入にあたっての市民、行政の問題や課題意識を整理し、モデルスタディとして一地区について事業の評価を試みた。</p>